

晩秋の侵入者！！カメムシ対策

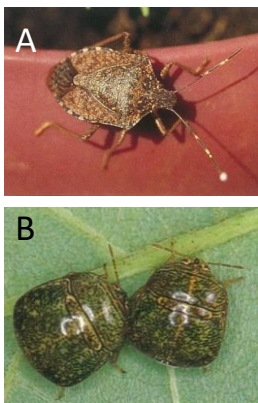


図1:クサギカメムシ(A)、マルカメムシ(B)

秋が深まると、多くの昆虫は姿を見せなくなっていく。しかし、一部の昆虫は、冬にさしかかると人間にとつて困りの種となり、虫たちは活発に活動しなくなる。カメムシに悩まされている方も多いのではないだろうか。今月は秋から冬にかけて建物で多く見られるカメムシの仲間とその対策について紹介しよう。

秋のカメムシたち

カメムシの仲間は本来、樹皮下や落葉下、朽木などで冬眠することが多いですが、人間の建物も過ごしやすい。そのため冬眠する場所として好まれることがあります。

10〜11月頃になると、カメムシたちは侵入する前に日当たりのよい壁面に集まります。その後、窓の隙間や換気口等、建物の僅かな隙間から侵入してきます。カメムシは体が扁平であるため、幅わずか2〜3mmの隙間でも侵入可能です。建物で冬眠をするカメムシで最も多いのは、中部地方においてはクサギカメムシやマルカメムシです。前種は山間部で多く、後種は市街地などのあ



October. 2020 vol. 130

発行所 / 株式会社環境サービス 技術グループ
 発行人 / 山本幸弘
 編集人 / 十川晃一
 愛知県岩倉市鈴井町中島96番地
 〒482-0035 ☎ 0587-66-6218
 ✉ gijyutsubu@fujikankyo.co.jp

PICK OUT 今月のペスト



クサギカメムシ



日本原色カメムシ図鑑より

本昆虫は重要な農業害虫でもあり、植物病を媒介し収穫物に大きな被害をもたらすことが知られています。近年では日本からのNZ向けの自動車積んだ多くの船舶において、本昆虫の発生が確認され、入港が拒否されました。信じられないような規模の被害を出していることから、製造だけでなく、あらゆる現場における防虫が重要になると言えるでしょう。

屋外から侵入する虫対策に インセクトガード パッキン

対策と今年の傾向

カメムシは屋外の山林や草地から発生するため、根本的な対策を行うことは難しいです。そのため侵入防止策が重要になります。

その中で、第一にすべきことは、開閉部や壁などの隙間を無くすることです。やはり物理的に入ってこられないようにすることは効果的なのです。次にすべきことは、残効性の高い薬剤を塗布することです。前述の通り、カメムシは始めに日当たりの良い外壁に飛来します。そこで残効性に優れた殺虫剤を塗布します。そして、さらに侵入口となりうる換気口にも塗布します。こうすることで、建物に寄り付かなくすることができ、また、クサギカメムシは最低気温が15℃を下回った後、最高気温が25℃前後を超えた晴れた日に建物へ飛来し始めます。つまり、最低気温が15℃以下になる前には、これらの対策をとるべきだと言えます。そして、今年には愛知県と岐阜県、富山県を含む14県で、カメムシ注意報(病害虫

発生予察注意報)が出ています。原因は昨冬が記録的な暖冬で冬眠しやすい環境であったためとされています。そのため、今年には例年以上にカメムシが、多く集まってくるのが警戒されます。

もし、建物にカメムシが多数集まるとい場合は、一度、当社にご相談ください。最適な対策についてご提案いたします。

気になる用語の豆知識

冬眠

寒さが厳しい冬の時期を、土や朽木、穴蔵などにもぐって、じっとしたまま過ごすことを「冬眠」と呼称します。冬眠の準備に昆虫たちは、凍結耐性を得るために体内にトレハロースなどといった糖類を時間をかけて作り出します。これは細胞内にトレハロースを蓄えることにより、細胞内の体液の凍結を防ぎ、生体細胞を守っているのです。そのため、冬ごもりをする昆虫であっても、寒い環境にいきなり放り出されると、準備ができていなければあっさり死んでしまいます。

いきものコラム



図2:こもを巻かれた松の木

古の害虫駆除「こも巻き」
 皆さんは、冬に松の幹にわらが巻かれている光景をご覧になったことはあるでしょうか。

執筆中、昼間は暑いですが、夜は少し冷え込んできたように感じています。近年は暖冬が続いていますが今年はどうなるのでしょうか。(KS)

しかし、現在ではこの方法は害虫駆除に関して全くの逆効果とされています。実際に捕まっている昆虫を調べると、肉食性のサシガメやクモ類ばかりでありマツカレハの幼虫はそれほど捕まっていなかったのです。つまり、どちらかと言えば益虫の方を多く殺しているのです。日本の晩秋の風物詩と言える「こも巻き」ですが、もはややるべきではないと言えるでしょう。(KS)

実はこれは、江戸時代から伝わる害虫駆除の方法なのです。その名も「こも巻き」と言います。駆除の対象はマツカレハという松の葉を食害する蛾の幼虫です。マツカレハの幼虫は、寒くなると地上に降り、枯れ葉のなかで越冬します。そのため、松の幹の地上2mほどの高さに、藁でできた「こも」を巻きつけておくと、マツカレハの幼虫たちは「こも」を冬ごもりの場所を選びます。そして、春先にこの幼虫入りのこもを焼却処分することで、根こそぎ駆除することができると言います。木に腹巻きしているように見えますが、木の防寒対策では無いのです。

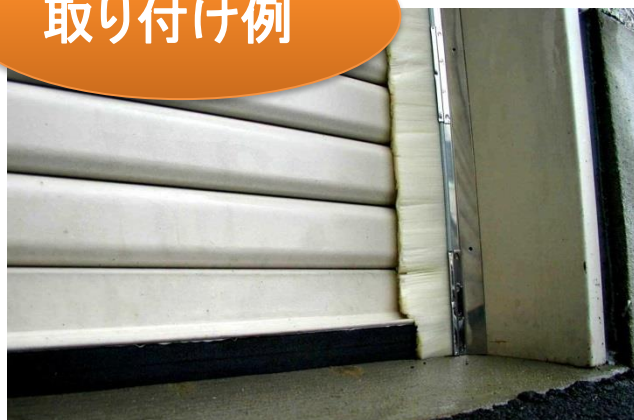
インセクトガードパッキン

特長

- ☑ 弾力性に富み高い密着性を確保！
- ☑ 両面テープなどで簡単に取り付け可能！
- ☑ 水も埃も光漏れも防ぐ！



取り付け例



現場に合わせたオーダー品もあります。

なぜ虫は隙間から侵入するか？

人間の目にわずかに数ミリの隙間でも、小さな虫にとっては十分な大きさの出入り口になります。わずかな建物の隙間から虫の誘引要素となる暖かい空気・臭い・明かりなどが洩れ、接近した虫はそれを逆探知し隙間より虫が侵入します。



 隙間から入る落ち葉もシャットアウト！ 



株式会社フジ環境サービス



本社 〒482-0035 愛知県岩倉市鈴井町中島 96 番地

北陸 〒921-8012 石川県金沢市本江町 9 番地 14 号
サンバード金沢ビル 202 号

ISO9001認証取得／本社・名古屋営業所適用

TEL.0587(66)6218 FAX.0587(37)7768

TEL.076(287)3971 FAX.076(287)3972